

「タリヤ」は、三つの翼の三羽の鳥を、日本南の王様の現段階、反帝三羽の形成する二つ。

② 民主主義の成立は「政治社会」の固
 執の瓦解、大衆の自然発生性で、大衆の
 現実的利益を、金融資本家口舌に反対す
 る全人民の共同利害として表象化（衆小
 衆組織）となさなければならぬ。はた中心に
 つき全人民の同盟し全人民的統一戦線と
 して組織するなり。

二、この内では、決定的に不充分である
 國家行政機構（官僚機構）を通じて、即自
 的利益での同盟（金融寡頭制を軸とする
 諸階級の配列関係）の形成、また海外主
 義、フアミズムのナミヨリアズムとして
 収束、新君主制國家体制の完成も、正に
 この大衆の自然発生性の、アルミョア政
 府による組合、上からの組織を通じて實
 現される。①② 組合斗争、金々々ワ
 政治斗争の中で、形成される。アロレタ
 ン（ア）と動とする諸階級の角力関係を
 アロレタン（ア）として、ここに、この
 社会表現としての「總論」として提起
 することになる。

[illegible]

日本南支那の現段階——反南支那の
歴史的位置と 權力斗争の方向性へ

市民社会・政治社会の功徳、分弊、大
阪な、国家力をめぐる流派の再編とい
ふ「政党民主主義」の時代の約束は、安
保―三池、六二期臨組三勢力、議院民
主主義の最終局面から、池田内閣期の一
つゆめ、政治的「パルチザン」の先立、大衆民主
主義の過渡期をきたす、本陣へと、日朝―
バト―ウチン争を、ブルジョアには断る事、收
二。

高度成長（自然成長的と経済的獨立に伴
 形成）の矛盾に逼り生産と市場問題に不
 況の 全社会的平等化（不均等発展
 の終焉）と、新憲法体制へ代議制民主主
 義）からの取戻り国家の市民社会の成
 行政権肥大化を開始された。この二つは
 至道スナハ、全社会的資本八 equal
 日本的高度経済（公務員のスートン追慕）
 の対立、国家行政権肥大の方向へ発展
 する資本的性質を明らかにし、スールニ
 ンに批判的立場をとり対立する。

代表政院、組合、大衆をいつ、但別資本の
的結合を誠之、革命党、及び自由政治組
織へ「ロタリ」ナク（モロ）、「大衆」と
いふ、社会的結合と社会政治主義の所
在の性格を示す。

こゝゝゝなる。ハルミナ政治が力
に於て公利万の結合（国家彼古資本主義）
公債発行、独占体と銀行資本の結合
金融壟斷制を通じて、資本の牙官の中
心への協同、石炭業發展の創出、即ち十
二箇の管理代は資本を統一する金融資本
の結合、代カロス非金融資本の整理
金（一）制度となり、三半の併所代
海軍、民間、中小企業に至るまで、タ
ーナーの全統の整備した。

くらゐ、「この國家は獨り資本主義は、財政政策は流通過程の支配であらう。現在、産業政策は生産過程の支配へ發展し、國家政策はこの独占體形成」、資本の國家的管理は「特權力にまさるゝ、別種特權の發行、特權特權のロータリー（統治機構）化を「帝國主義」の承認」と「政治スロ」の禁止とを提議されてゐる。

他方、ルニ石中、川又ルの危境に對しては

口に「タリ」トハの再教育と提議を以てして
日本帝は主權の國際權力とこの立場（帝
國主義國際論）を以て植民地支配を帝國主義國際論
の目的同盟への南進を併發せしむる曰「華北」
ナムに至るは、白蓮の武裝三手を前手とする曰
「保護林」ヤルヲ体制ト米帝の世所支配体制ト
危機の國內への波及をさす曰「内訌」。この二
は、金融膨張國際主義の弊制（戦争、民族抑

三半を要し、全人民を統一し、
 建てるものか、全人民的統一政策形成を可能
 にする条件があることとす。10.2.2.5.4
 反戦闘争政策はその萌芽であった。10.2.2.5.5
 内政的任務は、内政的任務のうち日本民族の防
 衛、国防、国防衛士による市民権の条件
 も同時に準備した。

10.2.2.5.6 国際危機の病舎、産業資本主義
 段階、代議制民主主義の時代は一般的であ
 り、帝国主義段階、政治民主主義の時代は
 本格的なものである。10.2.2.5.7

社南、自民党右派、金融、リッツエル、中
 国、社会党左派、天鹿党、一統評民同左派、
 一つ旧体制派との確執、公明、自民党左派、
 産業、リッツエル、どうも、社会党右派、民
 社党、公明党、同盟、エム、エム、一統評民
 同左派の「新体制派」の確執、この四派、一
 国、社会党左派、天鹿党、一統評民同左派、
 一つ旧体制派との確執、公明、自民党左派、
 産業、リッツエル、どうも、社会党右派、民
 社党、公明党、同盟、エム、エム、一統評民
 同左派の「新体制派」の確執、この四派、一

くみかへてゐる。現在の反動の排外である。
自派六衆組織の否定は主權治民反動である。
自派六衆組織の「二」権力性」の要矢は「國家行
政機構への組織」「國家独立資本主義による十
分断」と「二」の「二」組織」の特徴である。
二一「二」の「政體民主主義」「権力三争」の皇
本性格である。いづゆる「國家の獨力性」は
「國家の公力性」たる「國家の憲法」の中で分辯し
「公力性」を導いて、「獨力性」二一「二」

ある政治斗争を展開するに、50年代前半の代議制民主主義への「回復」が、

統治士山に「政覺民主主義」の時代の
對策は革命的に終つた、代議制民主
主義は口實のする社會覺醒派、總評、同
座派な「反体制」的性質を有してゐる
のになつ、「公共性」を利用し、その
力關係を「政治力」に「社會力」
に内入の維統的ハナニ一拡大を語
源とする、社會覺醒派、總評、同座の
ハナニ一

といふは、主権の所在が主權化と
 され、代議制民主主義の後退、一大衆組織への否定に正面反對をバネに革命へ至る路線の決定的不合法性市民社会、政治符合の功徳、分離の大衆の自然発生的な連絃と組合三半全人民の統一根據となる二半にあつてのこの革命は主権へ至らざる故に一放り用ひを決定的に棄つてゐる。

帝國主義國家の行政機能への大衆組

争の形勢は、政見代差への、対見近知への大衆の全面的傾倒である。全方衆（天理）組合（事）（反独）（反立理）（反事）（全人民的政治）（事）（反木）（反政）（事）の四分野に、たゞ（事）（反独）（反立理）（反事）の四野の間に、行政権を握つて政治組織をなしてゐる公選衆の陳規を破り、（事）（反木）（反政）（事）の四野の間に、行政権を握つてゐる。

大衆政治（一）は、（一）反獨回主義、民主運動、政友会（二）の、党派官の大衆的政治（三）として展開する。故に、（一）の親王、（二）の主義、（三）の、民

主權は政府といつ、革命的な権限は、
のとなす。この權限の政治斗争
組合斗争 全人民の政治斗争で、政
治宣傳といふことも、大衆斗争といふこ
も、大衆組織的性質の行政機能
を内蔵する總組織が必要である。情
勢を自分から作り、大衆の自然發生性
を刺激するといふことが必要である。

このころ 社会民主主義 福地主義回家

如何に開始する。
 日本南口主税口家の支配様式は、「大
 衆組織」の「反能力性」「政治性の喪失」
 口家行政代能への組織化にあり、この条
 件は「大衆組織」の運動の「行政代能」
 による抑圧にあるならば、「この能力斗争
 のための性格は、大衆組織の反能力性
 政治性の代能より自由権協賛斗争、本その

野黨に先づ以上の問題を提起する。①
 全人民の政治斗争への自覚的
 参加。②核力斗争のための革命共
 産主義。③党中核力能の理論斗争。其

の以上のは、
二つ點に於ける活動形態の明確な分離
と、身中他人の由生變化現象を要するこゝ
は、いかにあつてゐないこととは巨眼のこ
ころからには誤解のなきやうである。

へてく

共產主義同盟京大細胞結成宣言

學園 皇京都 皇京大の学友諸君ノ
日と期して共產主義者同盟京大細胞力
成を宣言する。戦後世界体制の根柢的
底の只中に導かれせし國際的権力とし
登場しつつある日本帝國主義は、現在

提建し、暴力を塔置、行政機構のフル軌
 とし、労働者階級、曰く社会主義者を完收し
 遂に社会排斥主義者に転化すること
 により、着々と押し進めてゐる。この
 たな帝國主義支配に於いて、大要の新
 な自然発生性が形成されつつあり、手
 に杖々は目的意識的権力斗争の追求
 組織化を通じて、日本の社会主義運動